

本園の特色ある教育活動
～人との関わりを通しての育ち～

越前市坂口幼稚園

1 園の実態

本園は、越前市西部の中山間地域に位置する坂口地区にあり、唯一の就学前教育施設である。本年度の園児数は3歳児2名、5歳3名の計5人と少人数ではあるが、園児一人一人の考えや気持ちを受容することでのびのびと意欲的に活動に取り組んでいる。

本園は坂口小学校、武生第二中学校坂口分校と併設されており、年間を通して幼小中全員で構成された坂口校の縦割りグループでの交流活動が盛んである。そのため、子供達はお兄さんやお姉さん達に親しみや憧れをもって触れ合うことができ、豊かな心の育成に役立っている。

また、園庭の続きにある一周300mほどの裏山（ハッピー山）や、周囲の野原や田んぼにはいつでも出かけることができる。地域全体では、コウノトリの放鳥により、恵まれた自然環境を見守っていこうという気持ちが高く、子供達は四季折々の豊かな自然に触れたり感じたりすることができる。

2 めざす園児像

本園は幼小中一貫した教育目標である「自ら学び自ら考え、たくましく生きる坂口っ子の育成」を目指し、日々の活動を計画実践している。人との関わりや豊かな坂口の自然の中で、「自ら」試し「考え」、「たくましく」生きる力が園児一人一人の心と体に蓄えられるように、次のような育ちをめざした。

- (1) 小中学生や地域の方、さらに、近隣の園児と交流し、いろいろな人と関わりながらのびのびと行動し、人に親しみを深める園児。
- (2) 身近な自然や地域環境の中で、感動や疑問、気付きなどを友達や教師と共感しながら、すすんで試したり探究したりする園児。

3 活動のようす

【坂口校(小・中学校)とのかかわり】

- ・坂口校の特色として異年齢での活動がとても多く、七夕祭りやなかよし交流会、餅つき会などの縦割り活動では、子供達は小学生や中学生との触れ合いを楽しみにしている。



- ・休み時間には小学生が気軽に幼稚園に来ることができる環境にある。一緒に体育館で鬼ごっこをするなど、普段の園生活の中に自然な双方の交流が見られる。今年は、1・2年生の子供達が作った「おもちゃランド」

に招待され、製作したおもちゃで遊んだ。幼稚園ではみんなで協力してお店屋さん「さかぐちベル」を準備し、坂口校全員を招待した。この活動では園児一人一人がめあてをもって活動に取り組むことができた。



★育ち・・・

小学生の活動を明確に理解できる環境にあり、幼小連携がスムーズに行われていることを実感する。



【同年齢（王子保幼稚園）とのかかわり】

- 本園は園児の人数が少ないため、子供同士で葛藤したり、考えをぶつけ合ったりして同年齢で育ち合う機会は少ない。同年齢集団の中でさらに自己発揮して育ててほしいと願い、昨年度に引き続き王子保幼稚園との交流保育を10回実施した。1回目は緊張していた子供達も、共に生活したり遊んだりすることで、一緒に活動に取り組む楽しさや喜びを味わうことができた。
- 坂口幼稚園にはプールがなく、簡易プールでの水遊びを楽しんでいる。夏の交流では、王子保小学校のプールで一緒に遊ぶことができた。最初は水しぶきに躊躇していた子供達も、水かけごっこやビート板でバタ足をして遊ぶことができるようになり自信をつけた。また、友達の姿に刺激され、水に顔をつけたりバタ足をしたりして自ら挑戦する姿も見られ、園児一人一人の成長を感じることができた。
- 王子保幼稚園児を招待し、エコビレッジの野村指導員と一緒にハッピー山で『ネイチャーゲーム』をした。グループに分かれてみんなで相談したり協力したりしながらネイチャービンゴをしたり、木の幹に聴診器を当てて木の中に流れるかすかな水の音を聴いたりして自然を体感することができた。また、校内にある栗の木の栗拾いをする、イガの剥き方を王子保幼稚園児に教えたり、遊具が増えた100周年記念公園でも一緒に遊んだりすることができた。王子保幼稚園の友達から「坂口幼稚園はいいな」と言ってもらえて嬉しさとともに誇らしげな様子だった。
- ドッジボールでは、集団ならではのルールのある遊びを楽しんだり、ゲームを進める中で友達と色々な作戦を考えたりする経験ができるようにした。初めはボールを投げたり逃げたりすることで精一杯だった子供達も、毎日園でドッジボールをするようになり、どうやったらぶつけ



られるか、相手にボールを渡さないかなど考えるようになった。そして、王子保幼稚園との交流の場でも全体の動きを見ながら逃げたり積極的にボールをとって投げたりするなど、考えてゲームを楽しめるようになってきた。



★育ち・・・

- ・ 普段の少人数での活動の際は教師に頼りがちだがドッジボールを通して競争心や作戦など年齢相応の育ちが見られた。

覚えた友達の名前を呼び合いながら、「元気でね。」「また会おうね。」と声を掛け合い、プレゼントを渡してお別れをするなど、10回の交流の積み重ねにより、緊張気味だった表情が徐々に和らぎ、大勢の中で自分を存分に出しながら楽しそうに遊ぶ姿に変わっていった。



【地域とのかかわり】

- ・ お茶教室

毎月2回、ゲストティーチャーとして地域の方にお茶を習っている。年齢に合わせた指導をしていただき、初めての子供も落ち着いてお運びやお手前の練習に取り組むことができた。練習の成果は「お招きお茶会」に保護者や坂口校全員を招待して披露する。日本ならではの文化に触れ、お茶教室を通して立ち居振る舞いなどの作法を自然に学んでいる。



- ・ サツマイモの栽培・収穫

越前市エコビレッジ交流センターや自治振興会の協力を得てサツマイモ作りに取り組んだ。振興会の方々には畑の段取りから収穫まで協力をいただいている。苗植えの時には、園児一人一人に苗の植え方を教えていただいた。収穫の際には「あった!」「採れたよ!」と子供達の嬉しそうな声が聞かれた。さつまいもを収穫することができてみんなで大喜びで、「〇〇さん、ありがとう」とお礼を言うなど、身近な大人に親しみをもつことができた。



- ・ 田植え、稲刈り、しめ縄づくり、餅つき会

毎年、小学校は振興会と稲作活動をしている。園児も苗植えや稲刈り、はさ掛けなどの様子を見ることができる。



今年もこの田んぼの無農薬わらを使って、地域の方に作っていただいた「わらのリース」でしめ縄作りをした。収穫したもち米は、エコビレッジで坂口校や地域の方々と一緒に餅つきをし、きびもちや磯部もちなどをみんなで食べ、交流を深めることができた。

★育ち・・・

- ・身近な地域の環境に目を向け、日頃の活動に生かしていくことで、地域の人を身近に感じ、自然の恵みやふるさと坂口の良さを知ることができた。

4 成果と課題

【成果】

- ・異年齢（小中学校）の関わりの中で、優しくしてもらったり、憧れの気持ちをもったりしていた。自分より小さな子には優しく接するようになり、小学生や中学生の姿がよいお手本になっている。また、小学生になることへの期待がより膨らんだ。
- ・王子保幼稚園との交流保育では、同年齢の関わりを通して少人数では味わえない刺激があり、協力したり競い合ったりする経験ができた。
- ・共通の体験の中で共感しあえた喜びや楽しさは、子供達の笑顔につながり、子供達の楽しそうな姿は、地域の人達の活気につながったと思われる。

【課題】

- ① 交流が単なるイベントに終わらないように、小学校とよく話し合い、接続カリキュラムも毎年見直していく必要がある。
- ② 王子保幼稚園との交流保育では、王子保幼稚園から坂口幼稚園へ来て遊ぶ機会をもつなど、相互交流ができるようにしたい。
- ③ 地域と子供がつながることができる取組みを今後も工夫し、子供達の豊かな感性や意欲を育んでいきたい。